

令和5年度「知事と市町長の円卓対話」（大台町）概要

- 1 対話市町名 大台町（大台町長 ^{おおもり}大森 ^{まさのぶ}正信）
- 2 対話日時 令和5年4月12日（水）14時30分～15時10分
- 3 対話場所 奥伊勢フォレストピア（大台町菌993）
- 4 視察場所 大台町観光協会【奥伊勢テラス】（大台町佐原663-1）
三瀬谷ダム湖周辺【B&G 海洋センター】（大台町弥起井363）
- 5 対話項目
 - （1）宮川の流量確保について
 - （2）県立高等学校における土木系列の専門学科について
 - （3）大杉谷登山道登山口までの県道整備について
 - （4）「みえ森林・林業アカデミー」の講座内容の拡充と大台町のフィールドを活用した人材育成の取組の支援について

6 対話概要

対話項目（1）宮川の流量確保について

（町長）

本町を流れる宮川は、国土交通省が実施する全国水質調査において、何度も「最も水質が良好な河川」に選ばれている清流日本一の河川です。宮川ダム直下からの流量については、維持放流として毎年、毎秒 0.37 トン、流量回復放流として毎秒 0.13 トンの、合計 0.5 トンの流量を確保していただいております。しかしながら、十分な流量とは言えず、夏の間は、渇水により宮川ダムから桧原谷までの5キロの区間では藻類が繁茂している状態です。また、粟生頭首工直下で毎秒3トンの流量を確保していただいておりますが、玉城町の岩出付近では、川の流れが途絶えて伏流水となってしまう瀬切れの状態になってる箇所もございます。毎年5月には、アユの友釣り解禁になり、県内外から多くの釣り客が川を訪れます。本町は町全体がユネスコエコパークに登録され、人と自然との共生と、生物多様性の保全を目指しておりますが、アユなど水生生物が生育できる環境を守るために、河川の正常な機能が維持できる流量の確保について、格別のご配慮をお願い申し上げたいと思います。

（知事）

ダム直下の水につきましては、平成18年以降は0.5トンを確保させていただいております。それから粟生頭首工直下の3トンについても、灌漑放流と流量回復放

流の両方を実現させていただいているところです。引き続き安定的な水量確保をしっかりやっていきたいと考えています。藻が茂りすぎるとアユもちゃんとできないということで、平成 30 年度から人工的に土砂をダムの直下に置きまして、ダムの放流時にその土砂が流れていって藻を掻きとっていくということをしております。令和 4 年度には、4000 m³置いて、大体 70%程度が流れて、藻を掻きとってきれいになったことを確認しています。引き続き、水量の確保とその土砂を置いて藻を掻きとる、こういうことをやりながら、アユが生息しやすい清流を実現していきたいと思っているところです。

(町長)

昨年放流をしていただいたんですけど 7 月以降だったので、できれば 5 月～7 月の間のアユ釣りの時期にしてもらおうと流量も増えてアユも育つんじゃないかと考えておりますので、5 月～7 月の間は放流を考えていただけるとありがたいと思います。下流では BOD が、0.5 以下でないと清流にはならないということで、去年は 0.7 で清流から外れたということです。上流としては大変綺麗にするという責務がありまして、中電さんともいろいろ話をしながら、放水の時も考えていただいてやっていこうと考えています。

(知事)

放流につきましては、土地改良区とも話しながら町長がおっしゃったような時期に安定的に対応できるような形になれるように調整をしていきたいと思っております。今年雨が少なく、田んぼもなかなか厳しいということですので、今ちょうど土地改良区とも調整もし始めようかというところでございます。そうすると適切な時期に水を流せますが、これも立場ごとに流してほしい時期も変わってきますので、その最大公約数のような時に流せるように我々も調整していきたいと思っております。権利をお持ちでいらっしゃる中部電力と、土地改良区と私共で様々な話もさせていただいてまして、ご協力も頂戴しているところでございます。大台町と一緒に、中部電力とこれからも話を続けていこうと思っております。どうぞよろしく願いいたします。

(町長)

この地域で宮川の環境保全に対する NPO も立ち上がったようなのでよろしく願いいたします。

(知事)

県でも流量回復の検討会議を設けて、議論しているところです。引き続き大台町

ともよく話をしていきたいと考えております。

対話項目（２）県立高等学校における土木系列の専門学科について

（町長）

最近各市町の自治体においては土木技術員の人材確保が必要不可欠でありまして、土木技術員が不足しております。日常の公共土木施設の維持管理、現場の監督業務はもちろんですけれども、大災害が発生した場合の災害復旧対応が遅れてしまうなど深刻な問題となっております。現在、当町の職員、土木技術員は2名しか在籍しておりません。今後も土木技術員の採用を計画しておりますが、なかなか希望していただけないのが現状です。県立高等学校で土木系の専門学科がある高校は県内で5校しかなく、さらに卒業後の就職先として、魅力的な民間企業へ就職される方が多くなるため、自治体が土木技術員の人材確保に大変苦勞しております。町内にあります県立昴高校には、環境技術系の専門学科がありますが、主に農業・林業関係の学科となっております。この昴学園高校にぜひとも土木系の専門学科の設立をしていただきますようお願いいたします。一学年80名のうち20～30名でいいので専門的などころを作っていただけたらありがたいなと思います。ひいては昴学園の魅力回復の一つになると考えますので検討のほうよろしくお願いいたします。

（知事）

大台町から伊勢建設事務所に土木職の職員の方を派遣していただいております。逆に大台町には令和5年度からになりますけれども、県の土木技師を派遣させていただいております。実はこういう人材交流はいろんな所とやりたいんですけども、県もなかなか人手がおりませんので、土木職を派遣しているのは大台町だけとなっております。県の間がどこまで役に立てるかわかりませんが、しっかりとやらせていただいているかと思っております。確かに子どもが少なくなってきたというのもあるんですけど、県内全域で土木の人たちが少なくなってきたというのは事実です。お話をいただきました昴学園も、寄宿しながらというのが一つのメリットであります。昴学園の中には、5つのコースがございまして、国際交流、それから総合スポーツ、美術工芸、生活福祉、そして5つ目が環境技術です。この5系列、5つの履修科目で一学年80人ということです。それぞれに人気があり、人数カットして土木にというのはなかなか難しいところがございます。それならもっと増やしたらいいと思うんですけど、スペースの問題でなかなか増やせないという問題もございます。相可高校土木学科があり、土木学科を近くに作りますと奪い合うということもございましてなかなか難しいです。ただ、昴学園の環境技術は、例えば危険物の取扱の授業、3トン未満の建設機械の運転資格の授業もございます。実際、

資格をとるのは専門学校に行かれたり、試験を受けたりすることになるんですけど、こういった方々が町に就職するというのも十分あることだと思います。もちろん県立の学校ですから、例えば、我々が町と学校の間を繋がせていただいて、こんな人募集しているという話とか、こんな仕事ができるという話は十分やらせていただきたいと思っておりますので、そういったところをご活用いただけるとありがたいです。

(町長)

技術員の人材確保というのは全県の課題であります。これは余談なんですけど、相可高校が久保町長に「うちへ一人回してもらえんやろか」って話もありますので、できれば旧の宮川高校、萩原分校の時から土木科はありましたんで、考えていただきたいと思っております。また、私共も派遣、吉田君に来てもらってます。優れた人材でございます。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

対話項目（3）大杉谷登山道登山口までの県道整備について

(町長)

本町と奈良県上北山村を結ぶ大杉谷登山道は、全長 14 キロで、標高 1200 メートルの中級の登山道です。大杉峡谷と 7 つの滝と 11 本のつり橋を超えて原生林を抜けて大台ヶ原にわたる、見どころの多い登山道で、令和 4 年度は、6670 名の登山者が訪れました。本年もまもなく 4 月 21 日に開山となりますが、新型コロナウイルス感染症の減少傾向により、昨年以上に登山者が増えることと期待しております。コロナ禍前では外国人登山者の姿も見受けられたことから、with コロナの社会情勢により、インバウンドの見込みを期待しているところであります。登山口までの道のりは、道の駅奥伊勢おおだいから 40 キロあり、アクセスは自家用車や民間の送迎バスが中心となっております。アクセス道は、県道大台ヶ原線の大杉谷登山センターから登山口までの間は道路幅が狭隘で、対向通行に支障が生じ、場合によっては待避所までバックを数十メートルしなければならないケースがあります。対向時の交通事故も発生しており、多くの登山者が訪れる時期には、センターの職員が交通整理の対応をしている状態です。これらのことから、大杉谷登山道及び大杉谷を訪れる観光客が安心・安全・快適に登山や観光を楽しんでいただけるよう、県道の待避所設置について、格別の配慮をお願いしたいと思います。

(知事)

大台町の 93% が山ということで、4 月 21 日に山開きで多くの登山客が訪れるという話も先程ありました。私も山登りが好きで、三重県でまだ御在所しか行っておりませんので、最初に登るときは大台の山に登りたいと思っております。今、岩井

地区から久豆地区の間で、待避所の整備をしています。確かに道はどこでも狭いです。4か所は既に完成しているところですが、あと6か所、そのうち2か所は令和5年度中に着工する予定でございます。町の皆さんとお話ししている中で、まず岩井地区から久豆地区の間を整備しましょうということで、その次に登山センターから登山口までの工事をしようかとなっているところでございます。けれども、登山センターから登山口のほうを先にしたほうが良いということなら、工事費は限られていますので、優先度も町の皆さんのおっしゃるような形で、できればそのご要望をかなえさせていただきたいとは思っているところでございます。また相談させていただきたいと思います。

(町長)

久豆までの生活道路については着実に整備を進めていただいております、あらためて感謝を申し上げます。地域の方も、広げていただくと喜ばれているところですが、登山センターから登山口までの道路は大杉谷登山道への唯一の道路であり、大杉谷登山道を訪れる登山者は年間7000人にもものぼる状態です。土日になりますと日帰りの方が多いです。入山届を出した方が約7000人、入山届を出さない日帰りの方が祝日、土日に来ると百何台停まる駐車場が満車になるという状態です。事故も起こっています。生活道路が一番大事でそれを先にやっていただいて、そのあと登山道をやっていただくということで一つよろしく願いいたします。

対話項目(4)「みえ森林・林業アカデミー」の講座内容の拡充と大台町のフィールドを活用した人材育成の取組の支援について

(町長)

大台町の人工林は、本格的な利用期を迎えております。適切な森林の経営管理により、伐る、利用する、植えるといった持続的な循環利用を行うことが、次世代への引継ぎ、発展と、地域産業の雇用の創出となっていくことを考えています。しかしながら現状では森林の適切な管理を行う林業従事者は全国的に減少傾向にあり、当町においても人材の確保が大変難しい状況となっております。森林環境譲与税など、恒久的な財源が確保されていることで今後、森林・林業に対する県民や町民の関心がより高まるということを考えております。三重県では、令和元年に「みえ森林・林業アカデミー」を開校し、林業従事者の人材育成に取り組んでいただいておりますが、現在の制度は既存者のスキルアップに重点を置いており、新規従事者の確保にはつながっていないのではないかと考えております。次世代につながる新たな担い手確保に向けた取り組みも行っていただきたいと思います。また本町も全体がユネスコエコパークに登録されているなど自然豊かな山林を保有しており

ます。現在津市を拠点として開校しているアカデミーの拡充を図るとともに、当町に分校施設を設置していただき、新規従事者の育成や既存従事者のスキルアップのフィールドとして活用を検討していただきたいと思いますと考えております。

(知事)

「みえ森林・林業アカデミー」という学校がございます。これは、既に林業の仕事に就いておられる人が、自分の技能を上げるために行っていただく学校でございます。津の白山でございます。平成31年に開校しまして、校舎が相当古いので、三重の県産材を使いました新しい校舎を作り、ちょうど今度の土曜日に新たに完成式をやらせていただくところです。今まで77人くらい卒業しておられるんですけども、これはどちらかというと既に仕事に就いておられる方の学び直しです。新規の従事者の確保は町長も言われた通りで、今年度から新しい取り組みをしようとしてます。昨年度作りました公益社団法人みえ林業総合支援機構で林業従事者の方々を新規に作りだしていこうという事業をやっております。例えば、高校生を対象にして、就業の相談会も開催しております。それから、林業に就きたいという方々を対象に林業の体験ツアーもやらせていただいております。さらにはインターンシップの実施ということで、林業を営む方のところに学生さんに行ってもらって実際見てもらうということで、5年度から新しく事業を始めます。これから一生懸命やっていくところでございますので、学校の形というのはまだとれていませんが、どういう形がいいのかはこれから考えないといけないと思います。やっぱり若い人というのは本当に大切に、どんな産業に就くかっていうのは、あんまり性急にやっていくと逃げて行ってしまうということもあるので、しっかり育てていくことが大事だと思っています。そんな中で大台町の自然というのはすごく良いものがございますので、木を伐るタイミングの時に、例えば高校生の方に来てもらって体験をしてもらう事業をやりますので、大台町のフィールドを貸していただくと、その子らが大台町の林業に就くということもあると思います。ここは先に手を挙げていただいてお話をいただいたところは、やはりメリットはあると思います。町長から非常に有意義なご提案も頂戴してますので、私共はこのご提案を、みえ林業総合支援機構にお伝えをしたいと思います。そこでうまいことタイミングを合わせていただいて、インターンシップとか林業体験ツアーが大台町で組めれば、大きなメリットになると思います。そういう意味ではこの円卓対話を大台町でやったということは良い機会になると考えております。

(町長)

昴高校から3名の方が従事者に来ていただいて、1名の方は長男で上野のほうに帰ったんですけど、1名が女性だったんですけどバリバリと仕事をやってもらって

ます。今後も校長先生にお願いして昴高校から林業の従事者になってもらおうかなと思っているんです。給料が工場で働いている人と同じでは、野外で働く人には過酷なので、とてもじゃないけど今の形態では無理なので、しっかり儲けてくださいと、そうするとフォレストファイターズ、森林組合の方にも、全部ではないけど、儲けた分だけ払うことが、若い人にとって魅力になるのではないかなあとも考えておりますのでどうぞよろしくお願ひいたします。

(知事)

今は収入が、昔は木1本60万~70万で売れたんですけど、今はそんな値段では売れないという話がかこ5、6年前までは続いていたわけですが。ウッドショックがあって、値段が上がってよかったねって言ってたらまたちょっと落ちてきているということなんです。東京の建設会社・木材会社によると、すべてではないと思いますが、最近では木材の用途が広がっているというのが段々流れになってきているようです。それも外国材が、ロシアのウクライナ侵攻の影響で入りにくくなったので、国産材を使わなきゃいけないというのが、住友林業や三井不動産、三菱商事がそうおっしゃっていて、三重県の木をできるだけ使ってほしいんですけども、国産材が十分まだ需要はあると思っています。町長がおっしゃったように、給料を確保すると人材確保につながると思いますけど、私たちが若かった時みたいに、仕事は給料じゃないと言って「わかりました」っていう人達ばかりではないので、仕事の条件、子育てしやすい環境とかも含め、収入の確保をやらないといけないと思います。そういったあたりを大台町と林業の皆さんとでお話をしていただいて、魅力的な職場をぜひ作っていただきたいと思います。県としても最大限の支援をさせていただきたいと考えていますのでよろしくお願ひいたします。

(町長)

ぜひとも新たな担い手確保につながる施設及び支援をよろしくお願ひします。町としましても県の施策に対してできるだけの努力をしたいと思っておりますので、今後ともよろしくお願ひいたします。